

「ねえ あたし、人魚なの」

その青は

彼女がために

その青は

彼女がために

◎登場人物

僕（柿澤大翔）

高校生。“君”の幼馴染だが、あまり仲良くする気はない。

君（ゆでちい子）

高校生。“僕”を慕っている。

相馬（たばたゆういち）

大学生。他人との会話が苦手で、研究室に入り浸っている。

翔（たばたゆういち）

大学生。一度見たものを忘れない記憶力を持っている人気者。

先生（わかまどか）

大学教授。記憶の研究をしている。

進堂弘夢（坂本圭豪）

「僕」と「君」のクラスメイト。

黒羽りな（山口もね）

女子大学生。森栖と仲がいい。

森栖ゆき（浜館洋）

男子大学生。黒羽と仲がいい。

1 手紙始

僕 拝啓

僕 叩きつけたみたく青かった空が、日々淡くなっていきます
あなたがこの手紙を読む頃、きっと僕は…
なんてありきたりなことは言わないでおきましょう

君、ピアノ伴奏 「虹」

相馬翔 無意味ってものだから

僕 まあそんなことを言いだせば、この手紙だってそうなのですが
これは僕の自己満足ってもんなんです
褪せていく夏と、あの子のことを

相馬翔 どこかに残しておくための

僕 つまり、僕は怖くて嬉しくて、恐れてそうして喜んでいます
どうしたってもう選ぶことには選ぶのです

君 ねえ あたし、人魚なの

僕 …そう

君 聞いてよう

僕 聞いてたよ

君 あたし、人魚だからあ

僕 そんな！

…そんなわけでこの手紙は、僕と人魚の話なのです

君、僕、相馬翔 Our
りな、ゆき In→Out

りな 相馬くん

ゆき 翔くん

2 僕①

僕 In

僕 カラフルなお菓子のような子でした。

じゃりじゃりと鼓膜に砂糖が残るような、甘たるい声で話す子でした

…ヘルシー志向の一般女子高生に厭われて、片田舎の小さな町で浮いている
そんな子でした

弘夢 In

弘夢 おう おはよ

僕 え ああ、おはよ

弘夢 熱、もう、大丈夫なん

僕 うん

弘夢 ……あのさ、もう聞いた？

僕 え？ なにが

弘夢 だよな いや、あのさ、あー、俺たちも悪いとは思っただけど

僕 え、だからなにが？

弘夢 あー… うん、あのさ

僕 うん

君 In

君 あの おはよ

弘夢 あ、おはよ！

僕 ……

君 うん ねえ おはよ

僕 ……

弘夢 あー

僕 ……弘夢、あの、なに？

弘夢 いや

君 ねえってば

弘夢 あーそう！ ちょうどいいんだけどさ

僕 え？

弘夢 音楽祭！ 実行委員のおふたりです

僕 は？

君 あの、よろしくね

僕 え、まって

弘夢 あ、わかんない？ 実行委員

僕 いや

弘夢 秋のさ、音楽祭の係？ クラスごとにふたり出すんだって、なんか全体の準備とかも

僕 いや、それはわかってるけど

弘夢 俺たちも！ 休んでる間に決めちゃうのは、悪いとは思ってたんだけど

夏休みに仕事あるっていうから運動部とか、

塾行ってるやつとかはむずいなってなって

僕 でも

弘夢 あとなんか、実は仲良いらしいじゃん

僕 え、それ

君 仲いいっていうか、幼馴染なの

僕 それは

弘夢 ほら！ ふたりともこういうの、ちゃんとやってくれそうだし な？

僕 …

弘夢 頼めるよな？ どう？

僕 …わかった

弘夢 よかった！ あ、じゃ、俺、先生に言ってくるから

僕 あ

弘夢 out

君 …あの、ねえ、よろしくね

僕 …

君 あの、あのね、話しかけても

僕 委員会は 仕方ないでしょ

君 …うん！

僕 …僕は、僕は、教室の中で、まったくの無味無臭だったのでした

彼女はカラフルな、お菓子のような女の子 厭われて浮いている女の子
そんな僕と彼女の間に、緩やかな結び目が出来たのでした

君 あの あのね！

僕 …なに？

君 あたし、人魚なの

僕 は？

君 それだけ！

僕 …意味わかんないこと言わないでよ

僕 Out

君、自分の足元の影と会話する

君 ねえ ねえ、見てた？

君 あたし、まだ頑張れそう 頑張れそう、だよ？

だからお願い、…もうどこか行って？

君 うん

そう あたしは、人魚なの

君 Out

相馬 In

#3 相馬①

先生の研究室 ゆき In

ゆき あの… 失礼しま…す

相馬、ゆきのこと睨む ゆき、一回出る

ゆき あの… 失礼しま…す

同じ動き ゆき、外でうろうろ

ゆき あのー いやあの 先生、いないですか
相馬 ……

ゆき あれ あ、もしかして、先生？ あれ イメチェンしました？

相馬 ……

ゆき めっちゃ印象変わったなー みたいなー さすがあの 美魔女ー みたいな

ゆき ……あの 先生、いないですか

相馬 いない

ゆき うわ あ、そうなんですか…

相馬 ……

ゆき 誰？

相馬 ……

ゆき あ、あの ちょっと先生待ってたくて あの いても いいですかね

相馬 ……

ゆき あのー、エントリーシート？ に？ なんか推薦コメントみたいなのが必要で？

いやあ、大変ですよねこの時期ねー みんな急に将来が！ きゃりあでざいんが！
とか

相馬 ……

ゆき あっこれ無視だ 無視するタイプのね まあでも気にしないんですけどね、

へへ 失礼しちゃおーっと

相馬 うるさい

ゆき あっ、スイマセン

相馬 あの人、帰ってこないときは全然 帰ってこないけど

ゆき それはあの 知ってますけど あっでも教えてくれてありがとう

相馬 ……

ゆき 無視のタイミングが読めない

相馬 よくこ来んの

ゆき えっ

相馬 先生がたまに言ってるの おまえ？

ゆき ああ うん えと

相馬 先生が俺と会わせようとした

ゆき え、なんで

相馬 知らないけど

ゆき え あの でもそれなら、よろしく… みたいな？ せっかくだし

相馬 お前友達いる？

ゆき ……いる

相馬 少ないだろ

ゆき ……あの〜、あつ、先生の、ゼミの？ よければなんか自己紹介でも〜みたいなの

相馬 ……相馬

ゆき あ、ソウマくん！ へえ〜 かつこいい あ、どういう字？ なんか どういう？

相馬 ……

ゆき 無視のタイミングが読めない

相馬 何言ってるのか聞こえない

ゆき え、あ ……聞こえますか〜！！！！

相馬 うるさい

ゆき えっすいません

相馬立ち上がる

相馬 ……

ゆき え？ 何？

相馬 ……

ゆき う、うわー…

ゆき、おびえた感じで顔を伏せる 相馬 OIT

しばらく顔伏せてて、ちよっと伺う

ゆき え？

ゆき、辺りを見回す

ゆき ……おーい？ き きこえますか〜！！

ゆき、もっかい顔を伏せる 目を離したら戻ってくるんじゃない？ 的な
顔を上げる、いない

ゆき ……消えた？

ゆき ……びえん！

4 翔①

りな「しばらくひとりですの昇天読みながらレポート

翔「

翔 やっほー

りな あ 翔くん

翔 あれ りなだけ？

りな うん

翔 ゆきは？

りな ゆきは今日、説明会

翔 説明会？

りな うん そろそろ、みんな行ってるじゃん

翔 そうだけど りなとかゆきも、そういうのやるんだ

りな なにそれ …まあさすがに、未来かかっちゃってますし？

翔 そんなもん？ あー、先生は？

りな いなーい 授業じゃない？

翔 そっか

りな なんで？ なんか用事？

翔 まあ、一応、研究室に来てるわけだし

りな いなくても入り浸ってるじゃん いいの？ 今日も探されてましたよ

翔 うん、まあね

りな …ところで、翔さま？

翔 さまはやめてって

りな いやいや、あの、一個お願いがありました

翔 …どの教科？ おれがとってるやつ？

りな 日本文学史

翔 こないだレポート出たよね

りな そう！ でもあの日に限って切っちゃったの！ え、知ってる？

翔 あの人、レポート提出忘れると期末に五倍の要求してくるんだよ！

翔 知ってるけど もう俺出しちゃったよ

りな そうそう、だから写したいんじゃないかって

翔 あー、そっちな 待って、んー… このへんからでいい？

『まず主人公である私は、ある満月の晩に海辺で△に出会うんですね』

奇妙な歩き方をする△を、はじめは探し物をしているんだと思うのですが、

ふと気が付くんですよ、そのときの一節がこれです、「あの人は影を踏んでいる。

もし落し物なら影を背にしてこちらを向いて捜すはずだ」

翔さま、ストップ

りな
翔

ん？
授業の分ぶんやろうとしてる？

りな
翔

そのほうが確実じゃん
いや長いって！　なんか、大事そうなどこ

翔
えー…　そっちのが難しいんだけどな　じゃあこのへんは？

「つまり△は、ドッペルゲンガー、自己像幻視とも言われる現象を自分の影に見出

していきまして、皆さん知ってますかね、出会ったら死ぬですとか、そういうった都

市伝説もございますね、本文に『影の自分は彼自身の人格を持ちはじめ』という

記述が』

りな
翔

待って待って、録音する

りな
翔

翔さま？
あのさ、やるのはいいんだけど　先に俺の相談にもものつてくれない？

りな
翔

え、いいよ！　いいけど、珍しいね

翔
…これなんだけど

りな
翔

履歴書じゃん　わー、翔さまも見据えちゃってますねえ
や、なんていうか　…ここ

りな
翔

経歴？　ああ、ここはね、卒業した中学と高校を
ああうん、それはわかってんだけど

りな
翔

うん
思い出せないんだよね

りな
翔

俺、なんか、大学入る前の記憶がないっぽいんだけど

りな
翔

え？
いや嘘、全部ないわけじゃないんだけど　めちゃくちゃ空白が多い…というか

なんか、不安になってここ書いてなくてさ

りな
翔

…え？　ほんとに言ってる？

りな
翔

うん
だってそんなの　翔さまに限ってそんなことある？
いやほんとに　…ないんだよ

りな …ええ？
翔 どうしよ？ これ

りな、翔 OIT

5 僕②

君、僕 OIT

君 ねえ

僕 …

君 ねえねえ

僕 …

君 …聞こえてない？

僕 …

君 ねえねえ

僕 やることやれよ

君 聞いている？

僕 聞いているって

君 綺麗な空だね、すっごく

僕 …

君 ね？

僕 今、その話する必要ある？

君 今、綺麗だから言ってるの！

僕 出たよ

君 君に教えてあげたかったの

僕 …そういうの、もういいよ

君 昔は …昔は喜んでくれたと思うんだけどな

僕 だから

弘夢 OIT

弘夢 おす あ、音楽祭委員

僕 あ

君 …ひろむくん

弘夢 わりー 忘れ物あってさ、いい？

僕 うん

弘夢 今何やってんの？

僕 あの、クラスの 曲決め？

弘夢 あー、なんか色々あったよな どれにすんの？

僕 とりあえず全部聴いてるところで

弘夢 マジかよ まじめだなあ

僕 そんなことないけど あ、弘夢も聞く？

弘夢 えー、でも俺そういうのわかんないし

僕 僕だってわかんないけど

君 あたし！

君 ……ちょっとお手洗い行ってくるね

僕 ……

君 Out

弘夢 こえー

僕 え？

弘夢 いや、なんか、マジで何考えてるかわかんない！ って

僕 ……ああ

弘夢 あのー、休んでた日？ 音楽祭の話し合いもやばかったよ

僕 そうなんだ

弘夢 いや俺たちはさ、それこそ曲決めとか適当にやっちゃってさ？

委員の仕事減らしとく？って、話してたわけ

僕 うん

弘夢 でもあの子がさ、「今年で最後の夏なのにそんな適当なのだめ」って ヤバくない？

そんな言うならもう委員やれば？ってなったんだけどさ

僕 ……

弘夢 ほんとこえーわ

僕 ……なんか、弘夢もそういうの、言うんだね

弘夢 だって、やばくない？

僕 それはまあ

弘夢 ……え？ なんか、引かれてる？

僕 え、いや

弘夢 あー、そっか、幼馴染だもんな？

僕 ちがう ほんとに ……幼馴染はそうだけど、もう何年も喋ってないし

弘夢 あ、そうなんだ

僕 うん

弘夢 や、じゃー、ほんと申し訳ないわ、実行委員

僕 …いや、別に、大丈夫だよ

弘夢 助かる、なんか、頑張ってたな？

僕 うん

弘夢 Out

僕 …あの子と僕は幼馴染、それはまあ、ほんとうで

昔から、気弱だった僕をあの子はあちこち連れまわしてくれました

君 ねえねえ、屋上にいこうよ、今日の空、とっても綺麗だから、一番近くでみよ！

僕 え（ワクワク）でも、危なくない？

君 でも、ほんとに綺麗なんだよ？ 色も、お日様も、雲も、今だけだよ！

僕 …

君 見なかったら後悔しちゃう！ だから、ね？

僕 「今は今だけ、後悔しないように」というのが、あの子の口癖でした

鮮やかな虹、露ののった朝顔や、夜のてっぺんに光る月

あの子について回るのはいつも楽しかった！

でも、いつまでも「今は今だけ」にこだわって、周りに合わせない彼女は次第に浮くようになりました

君 ねえ、へんだよ、どうしてみんな、思ってもないこと言うの？

あのときあしたらよかったって、あとで後悔しちゃうのはいやじゃない？

僕 たいてい、あの子の言うことは正しいのかもしれないでした

けれど、狭く息苦しい教室で、正しさなんて誰も求めてはいませんでした

君 ねえ、ね、どうして？

僕 だって、不特定と多数の悪意は、僕らから簡単に酸素を奪う

そうして溺れてしまうのは、どうにもならないほど恐ろしいのです

僕のようなやつにとっては尚更

君 ねえ、そう思わない？

僕 みんなの輪の中心にはいられない
かといって、あの子みたいにふわふわ漂うのには耐えられない
だから、彼女と一緒に厭われて、浮いてしまうことが怖かった
だから、だから、
「呼ばないで」

君 え

僕 「僕を巻き込まないでよ 僕は君と同じようには思わない」

君 ねえ？

僕 「君のせいで、僕は、君のせいで不幸になるような気がするんだ」

君 ……そっか そっか、それは かなしいなあ

僕 中学最後の年のことでした

それ以来、あの子は僕に話しかけてこなくなりました

僕は変わらず無味無臭の、透明な平穩を手に入れていたのです

…三年後、この夏、また結びつくまでは

僕 out 君、自分の影と会話する

君 (鼻歌)

君 ん？ うん、好きだよ、歌うの 落ち着くもん

君 ……うん、弘夢くんとは嬉しそうに話すんだああって、思っちゃったの

君 どうしてもね、うん、後悔しちゃうな

あのとき、そう、王子様を刺しちやえばよかったら、って

君 でもあなたも、あなたもどうせ、かなしくて苦しんだもんね ね？

#6 相馬②

先生の研究室 相馬がひとりている

またゆきが入ってきて、一回出ようとする

相馬 そのくだり、めんどくさいんだよ

ゆき いやあの だって

相馬 別に入ればいいじゃん

ゆき あ、…はい

相馬 …

ゆき …あのさ 相馬くん？

相馬 …

ゆき あ、あの 先生に聞いて ゼミ生でー、先生のちょっと古い知り合いだって

あの 仲良くすればって、先生も言ってる ほら、卒業研究もあるし

あと黒羽さんも、いろいろ仲良くしてみればって、だから

相馬 …

ゆき あ、あの、仲良くしてくれたらみたいなの

あ、あの、森栖です 森に木へんの「す」で 苗字に木が「つ」も入っちゃうぞう的な

相馬 …

ゆき あっこれまた無視 無視するタイプのね

相馬 お前みたいなやつ嫌い

ゆき …え？

相馬 その場しのぎで 合わせときゃいいと思ってる

ゆき だって いやでも、これは

相馬 だからきこえないんだよ

ゆき え？

相馬 お前みたいなやつが言うことは聞こえない

ゆき 聞こえないって そんなまさか

相馬 …

ゆき あれ、これ、また無視のパターンかな 無視のパターンだな おうい

相馬 …

ゆき え わかんないけど あれ

相馬 …

ゆき …あれ あれ

ゆき これ …ごめんなさい

りな 失礼します　…ん？

りな ちよつと、ちよつと、大丈夫？

ゆき …いや、黒羽さん

りな あんた、ゆきに何言ったの

相馬 …別に俺は

りな ゆき、どうしたの？

ゆき …聞こえないって　だから、なんか　無視　みたいな

りな ゆき

相馬 …

相馬、逃げようとする

りな 待つてよ　ねえ、相馬くん…でしょ？　先生が言ってた

相馬 …

りな ちよつと　ちゃんと話そうよ

相馬 先生にそう言われたから、話しかけてくんの？

りな …ゆき、ちよつと外出てな？　なんか飲み物でも飲んでさ

ゆきOut

相馬 …おまえ友達いる？

りな いる

相馬 あいつ？

りな そうだけど

相馬 他は？

りな あんまりいない　それがなに？

相馬 …ゆき、よりは、おまえのほうの話しやすいね

りな ねえ、なんでゆきのことは無視すんの？

相馬 ……聞こえないから

りな え？

相馬 信じられないかもしれないけど、ほんとに

りな 何それ

相馬 全部の言葉がつてわけじゃない、し、聞こえては来るんだよ

でも、なんていうか　音がぼやけるといいうか　あいまいになって消える

りな ……病気、とか？

相馬 そんな感じ

りな ……なんか怒ってごめん でも、ゆきは傷ついてたと思うから事情があるならちゃんと教えて

相馬 ……昔、自分の気持ちに蓋をして 酷いことを言ったことがある

りな ……もう後悔したくなくて、思ったことをなんでもすぐに口にするようになった……うん？

相馬 そうしたことが後悔になることもあるのにやめられない

とにかく、今、今、思ったことを、感じたことを

実行しないとって強迫観念で もうぜんぶ反射で

りな ……

相馬 それで それだけじゃなくて、音が濁る

他人が、今、今、思っていないこと、感じてもないことを、

その場しのぎで言う音が、濁って聞こえない

りな ……

相馬 おわり 信じなくても別にいいけど

りな わかんないけど ……適当言ってるとは思えない

相馬 ……

りな ……なんであたしには言ってくれたの？

相馬 思ったことそのまま言って、今やりたいことそのままやって

取り繕わないタイプに見えたから

りな ……まあ、そうかも？ そっか

相馬 それだけけど

りな あのね、相馬くん

相馬 なに

りな それならね、これからあたし、相馬くんはその瞬間！ 思ったこと言うよ

相馬 は？

りな そしたら聞こえる？

相馬 なにそれ

りな あたし、そういうの好きなんだよ

後先とか考えないでさ、今だけ思ったこと！ 正しいと思ったこととするの

相馬 ……

りな 仲よくしようよ、ね？

相馬 Oiii 相馬と入れ替わりでゆきH

ゆき 黒羽さんッ (小声)
りな あ、ゆき
ゆき なんかあの あれ 大丈夫だったッ？
りな うん なんか、悪い人じゃないと思うよ
ゆき えー……
りな 事情があるんだって
ゆき どんな？
りな んー… 今度話すよ
ゆき ……
りな 何？
ゆき あの人 ふつうじゃない、じゃん
りな でも、先生だって 話してみたって言ってたじゃん
ゆき でもお だからあ ……だって
りな ……あー、なんか、心配してくれてる？
ゆき だって 黒羽さんが
りな 大丈夫 あたしは大丈夫だし、もっとゆきは自分のこと考えてればいいの
ゆき ……わかったよ

#7 翔②

舞台上のゆき、りなのところへ翔「 ゆき・りな拍手

翔 え？
ゆき やってまいりました、今週の「恐怖！ 失われた記憶の謎！」のコーナーです
りな わー！
翔 え、何
りな ここでゲストの登場です こちらへどうぞ、翔さま
ゆき どうも
翔 ど、どうも… え、ナニコレ
りな いやね、こないだ翔くんから衝撃的な告白うけたじゃないですか
翔 記憶ない話？
ゆき いやびっくりした… ほんとびっくりした
翔 まあ、それはね
りな でね、いつも翔さまにはお世話になってるじゃん
ゆき 翔さまのおかげでいくつ単位が救われたか

翔 先日の日本文学史も？
りな 救われましたア！ あ、でね？ ここはひとつ恩返しといこうかと！
ゆき 病院行け〜って話なんですけどね
翔 大ごとになんのはなあ
りな 大ごとって意味では、元がもとだけどね
ゆき 確かに
翔 え、どういうこと
ゆき いやいや、歩く百科事典！
りな 円周率暗記ギネス記録更新っ！
ゆき いままでに食べたパンの数を忘れない男っ！
翔 お、おお
りな 学内で知らない人はいない有名人じゃないですか、翔さま？
ゆき 一度見聞きしたものは絶対に忘れない天才じゃないですか、翔さま？
翔 急に説明するじゃん あと、さまは嫌だ
りな コホン まあ、そんな記憶の天才である翔くんが記憶喪失とか？
ほっとけないですよね？
ゆき その通りです
翔 ほんとに？ 面白がってない？
りな はいまあそういうことで、記憶戻るときあるある〜
翔 進むねえ
ゆき 記憶をなくしたときと、同じ衝撃を与えてみよ〜
翔 同じって言われても、俺、ほんとになんの心当たりもないんだけど
りな だから手あたり次第やるんじゃない ねえ、ゆき
ゆき そう
翔 …例えば？
ゆき 勢いよく人とぶつかるとか
りな 歩道橋から落ちるとか
翔 本気で言ってる？
ゆき えー、だって。ほかに何かある？
りな ぴこぴこハンマーとかは？
翔 衝撃は、くるんだね
ゆき 来るね
りな 来る
翔 …そっか
りな むしろもっと重めのいっつく？
ゆき なんだろ。漬物石とか？

翔 待って待ってこわいって
りな ええ、でもやっぱりやるからにはねえ？
翔 …りなとゆきは 二人でいると暴走しがちだね
りな そう？
ゆき まあ、ガラパゴスだから
翔 なにそれ
ゆき 友達いないから独自のノリが発展してんの
りな コラ！
ゆき あっ
翔 え、何？
りな いや、あたしたちもいい大人だし ガラパゴスは良くないかなって
翔 良くないって、どういう？
ゆき 翔さまにはわかりませんよ ここを出たら異世界人のくせにッ
りな 人だからとか ぶうわ〜と作っちゃうくせにッ
翔 まあ それはさあ
りな ねえ、今度、飲みとか連れてってよ、翔くんの周りの…
翔 あー、とりあえず、ゼミ飲みかな？
りな え？ ゼミって 俺らの？
ゆき そう こないだもやってたでしょ
翔 ガラパゴス諸島には知らせが届かないんです
りな あー…まあ、機会あったら…ね
翔 え、それに、そういうところにもヒントあるかもよ？ 記憶喪失の
りな 友達多いわけだし、誰かは何か知ってるかも
翔 ……
ゆき 翔くん？
翔 …まあ確かに、りなの言う通りだわ！ ちょっと考えてみる
りな あれ、帰んの？
翔 なんか、そこまでしてくれんなら家でもなんか探してみようかなー、的なの
ゆき あ、確かに プロじゃん
りな でも帰ってこないよ、どうせ
翔 まあ、きたらさ じゃ

翔 Out

りな、ゆき Out

8 僕③

君、僕

君、ピアノ伴奏 「虹」

僕 音楽祭の準備は思っていた以上に煩雑で、夏休みをすっかり奪ってしまいました

それはつまり、いつの間にかあの子が 僕の生活に溶け込んでいたということです

僕 蒸した空気、長方形の窓に空 運動部の声も吹奏楽部の演奏もぜんぶが遠かった

埃っぽい教室は、二人だけで過ごすには存外広いものでした

君 どうだったー？

僕 いいんじゃない？ この曲で

君 そうじゃなくて 上手だった？ あたしの演奏！

僕 わかんないよそんなの

君 君が上手って言うてくれたら、それでうれしいんだよ

僕 …そう

君 ねえねえ、指揮してみてよ

僕 は？ できないって

君 適当でいいの！ こうやって、こんなかんじ？ 今だけでいいから！

僕 …こう？

君 素敵、いいね

僕の適当な指揮 君、ピアノ伴奏 「虹」

僕 時折、僕も彼女もぜんぶ忘れたようになりました

今、をただ過ごしてしまいそうになりました

そのたびにハッとすると ふわふわ教室を漂う彼女

そうはなりたくない僕が、彼女にかけた言葉

僕、指揮をとめる

君 あれー？

僕 意味ないでしょ こんなことしても

君 たのしいのに

僕 はたのしくないよ

君 ほんとに？
僕 ……
君 ……ねえねえ、あたしね
僕・君 人魚なの
君 あれえ
僕 最近のそれ、なんなの
君 だってあたし人魚なの
僕 そういうのやめろよ
君 ……ごめんね あたしのおまじないなの
僕 意味わかんないんだって

僕 ……僕、帰るから
君 ……あの、あのね 待って
僕 ……
君 あのね、今日で夏休み さいごでしょ
僕 うん
君 あたし、楽しかったな 君といっぱい一緒にいられて
僕 ……
君 あたし、やっぱり、君とお話するのが好きだな
僕 ……そう
君 あのね 夏休みが終わってもね 話しかけてもいいの？
僕 ……
君 君のこと また、前みたいに呼んでもいい？

僕、何か言おうとして、躊躇ってやめて Out
先生 In

先生 あれ？ ねえ、ちょっと、久しぶり！
僕 え？ ……あ え、先生？
先生 大きくなっちゃって、最初ぜんぜんわかんなかったよ 何年ぶりかな？
僕 先生が引っ越して以来、なので三年ぶりくらいですか ……先生は変わらないですね
先生 美魔女目指してるんだ
僕 ……そうですか
先生 あの子は？
僕 え？
先生 ちょうど君らに会いに行こうと思ってたんだけど ……上手く行ってないの？ まだ

僕 別に：まだとか、そういうんじゃないですよ
先生 あの子は 君のこと、ほんとうに慕ってるよ？
僕 そうですか
先生：仕事で、しばらくこっちにいるんだ また二人で遊びにおいでよ
僕 またって：いつの話してるんですか 僕は：
先生 そう まあ確かに、今は今だから でも 後悔はしないようにね
僕：仕事、がんばってください

僕 Out

#9 相馬③

研究室、先生がいるところへ相馬

先生 あ、相馬
相馬：何の用ですか
先生 聞いたよ、あの二人と会ったんでしょ？
相馬 はい
先生 とりあえず、いい感じ？
相馬：その話ですか？ 今日、呼ばれたの
先生 ん？ んー、まあ、少し近いかな

ゆき、りな 相馬をみてゆき露骨に逃げる

りな ゆーき 頑張ろうって
ゆき：だって無視されるし
りな 言ったでしょ？ 相馬くんも
ゆき わかってるけど
先生 おつかれ、ふたりとも
りな お疲れさまです
先生 さて、揃ったね 君たちを呼んだのはほかでもありません
りな なんですか？
先生 三人とも、そろそろ卒業研究のチームとテーマを決めてください！
卒業危ういよ？

りな あ
先生 君ら、ゼミ出席もしてないんだから

相馬 お前らも行っていないんだ

ゆき …別にいいでしょ

先生 まあそんなわけで、もうこの三人で組むのが手っ取り早いかなって
ゆき え

先生 ほら、そんな反応しないでよ 未来がかかっているとって

りな あの… あたしはいいけど、相馬くんは？

相馬 …ほかに 組める奴もいないし

りな そっか じゃあ、ほらゆき、がんばろ

ゆき でも

りな ね？

ゆき ……わかったよ よろしくー！！

先生 よかった！ じゃあ、次はテーマだね なにかやりたいことある？

ゆき …

りな …

先生 授業とか聞いてた？

ゆき えー、黒羽さんどう思う？

りな えー、ゆきこそ、どう思う？

ゆき・りな えーっ！

相馬 ……記憶消す方法

りな …え？

相馬 だから、記憶消す方法

ゆき 記憶を 消す？

りな ちょっとスケール大きすぎない？ 大学生のゼミ研究だよ？

相馬 助けてくれんでしょ、先生が

先生 …確かに記憶とか、そういうテーマにしてほしいとは思うよ、わたしの管轄だからね
でも相馬が言ってるのはちょっと生物学的すぎる

わたしのは心理学系、微妙に畑違いだね

相馬 ……

ゆき まあ ちょっと怖いし…ね？ 記憶消すとか

相馬 でも 出来たらいいと思うでしょ

りな …それは

先生 どんなに嫌な記憶でも、それを抱えて生きることで見えるものもあるんじゃない？
大事なのは後悔しないこと

ゆき 後悔しないこと

先生 今、君たちは光ある未来に向かってるじきでしょ？

だからこそ、うしろ、過去に影ができるんだ

でもその過去だって、未来にはいいつながり方をするかもよ

りな　　せんせ、ポエマーですね

ゆき　　でも、確かに　　そうかも

先生　　だからさ、相馬、

相馬　　聞こえませんでした

先生　　え？

相馬　　聞こえませんでした、って

先生　　：相馬

相馬　　：

先生　　できないんだ　　できないんだよ、相馬　　だからそんな研究してほしくない

相馬　　だから何言ってるのか聞こえないんだって

りな　　あのー、先生？　　相馬くん？

先生　　：わたしがいると余計だね

りな　　え？

先生　　相馬、ごめんね

ゆき　　え、先生

先生　　Out

ゆき　　先生にああいう態度はさあ　　あ、すいません

相馬　　：お前らはないの　　消したい記憶

りな　　え　　：ゆきは？

ゆき　　え　　うーん　　黒羽さんは？

りな　　あたしは　　あたしはない　　：かな

相馬　　：いま

りな　　あ！　　ゆき　　ゆきは？

ゆき　　うーん：ないかな

りな　　そうなんだ

ゆき　　さっきの先生の　　いい繋がり方してるってやつだと思うから

　　まあ、ぜんぶ忘れたいときもあったけど

りな　　うん　　そっか：

相馬　　：お前さ　　そいつと喋るときは濁るんだね

りな　　え？

相馬　　今だけ、思ったことそのまま、ってタイプだと思ったけど

りな 相馬くん！

相馬 ほら、そうやって止めるじゃん

ゆき ……黒羽さん？

りな ……

ゆき 黒羽さん、どうしたの 濁るって何？

相馬 言っていないんだ

りな ……ゆき、ごめん 先生のこと…追いかけてきてくれない？

ゆき え？ でも

りな やっぱりさ、先生がいないと決まんない気がするよ！ だからさ

ゆき でも

りな ゆき、お願い

ゆき ……わかったけど 黒羽さんに変なこと言うなよ！

○

ゆきOut

りな ……相馬くん、お話しようよ

相馬 は？ なにを

りな 別に何でも？ 雑談！

そうだなあ 相馬くんは消したい記憶があるの？

相馬 ……あるよ 記憶を消さないと、俺は未来に向かえない

りな 未来かあ ……ねえ、でもさ、よくない？

相馬 ……なにが？

りな 前も言ったけどあたしは好きだよ、相馬くんのソレ

相馬 こんなんじゃ、みんなと話せないじゃん

りな みんな？

相馬 ……俺は みんなと普通に友達になりたいんだよ

りな へえ

相馬 でも、こんなんじゃ無理だから

りな あたしとはこうやって話せるよ？

相馬 ……みんな、じゃないと意味ないんだよ

りな ……そうなんだ

相馬Out

研究室にいるりな ゆき・先生 Ⅱ

りな あれ、先生 お疲れさまです ゆきも

先生 おつかれ

ゆき おつかれさま

りな 珍しいですね、ふつうにここに来るの

先生 いや来るよ わたしの研究室なんだから

りな そうですけど

先生 あ、ねえ、君ら、そろそろ卒業研究のテーマとチーム決めてね

りな あ

ゆき 忘れてた

先生 だと思ったよ 共同チームは？ 翔と組む？

りな えーっ、翔さまはもうとっくに誰かと組んでるでしょ

ゆき そうですよ みんな欲しいに決まってるじゃないですか

先生 そう？ あいつ確か、まだ誰とも組んでないけど

ゆき え 意外

りな …ね

先生 やりたいテーマがあいそうなら組んでみれば？

りな テーマかあ え、ゆき、どう思う？

ゆき えー…黒羽さんは？

りな 翔くんと組むならやっぱあれじゃない？

ゆき やっぱり？

りな・ゆき 記憶取り戻す方法！

先生 …え？

翔 In

翔 あ 先生じゃん

先生 久しぶりー 元気だった？

翔 え、何しに来たんですか？

先生 いやいや、ここ、わたしの研究室だし

翔 もう先生に聞いた？

りな いまちょうど、その話しようとしてたところ！

先生 何？

ゆき 先生

りな 衝撃の事実！

ゆき われらが翔さま、記憶喪失！
翔 端的すぎない？

翔 …先生？

先生 ドーナツホール・ジーニアス

ゆき え？

先生 かつこよくない？

翔 え、なにが？

先生 わたしが、翔につけた病名

ゆき 病名？

りな え、先生ほんとになんか知ってるんですか？

先生 うん まあ、記憶に関することは専門分野だし

りな すご

先生 そんなもって、翔のデータも持っている

翔 えっ

先生 てへぺろ

ゆき こわ

りな え、で、なんなんですか その ドーナツホール…って？

先生 いい？ 翔にはなにか、重大な記憶の欠損がある

翔 はい

先生 それでいて、翔は記憶の天才だ

翔 そうですね

先生 このふたつは繋がってるんだよ 普通、人間の記憶は上書き保存だけど

翔は記憶にポツカリ空いた穴に流し込むようにして記憶をするんだ

だからドーナツホール・ジーニアス いかしてるでしょ？

ゆき ……え、結構、大事では？

先生 まあ、そうだね

りな …え、でもえつと？ それって、たくさん記憶したら埋まっちゃういませんか？

なんたつて、翔さまだし

先生 まあ、こういうのは量だけじゃない 例えば…重さとか

翔 重さ？

先生 なにか翔にとって、とても重い記憶が欠けてるんだ

だから、穴がいつまでも埋まらない

翔 重い、記憶

先生 …ゆき、りな

りな えっ、はい

先生 君らはさ、翔が記憶喪失だって知って、それを取り戻そうって思ってるんだよね

ゆき そうです

先生 でもさ、それって翔の意思は聞いたのかな？

翔 え

りな あそういえば …あれ？ 聞いてない…かも

ゆき 記憶喪失、イコール、取り戻さないとうまくみたいな…

先生 翔 翔は、どうしたいの

翔 …俺は 俺は、取り戻したい、ですよ 記憶

うまく言えないですけど 記憶を取り戻さないと、未来に向かえない…みたいな

先生 そうすることで、天才でなくなってしまうって？

翔 え

先生 記憶が戻ったら、ドーナツの穴は埋まる そうしたら君はもう天才じゃなくなる

ゆき あ…そっか

翔 それは

りな …はい

ゆき どうぞ

りな なんか、わかんないけどそんな重い記憶がなくなってるってさ

翔くんが思い出したくないんじゃないのかな

翔 え？

りな いや、わかんないけど …中学とか高校とか？

忘れたくなるようなことも多いかもな…って

それならそのままでもよくない？ みたいな

先生 君たちは光ある未来に向かってる時期なんだよ

だからこそ、むしろ、過去にできた影が気になる

でも、りなの言う通り 影なんて見なくなっちゃんとこの先には進めるよ

ゆき せんせ、ポエマーですね

翔 …そうですかね 俺には、むしろ 光があつたのは過去のように思える

先生 え？

翔 いや …でもそうですね りなとゆきが、このままの方がいいなら、そうしようかな

ゆき え？

りな あたしたち？

翔 もつたいないでしょ？ 天才

りな いや、別にそんなことは言っていないよ

ゆき うん

翔 でも ほら

『まず主人公である私は、ある満月の晩に海辺で×に出会うんですね』

奇妙な歩き方をする×を、はじめは探し物をしているんだと思うわたしですが、

ふと気が付くんですよ、そのときの一節がこれです、「あの人は影を踏んでいる。

もし落し物なら影を背にしてこちらを向いて捜すはずだ」

りな それ、こないだのやつ

翔 こういうのもう、できないよ？

ゆき …別に、それはいいよね？ 確かに助かってたけど

もし、翔くんが記憶取り戻したいならさ やっぱり卒業研究にしてもいいし？

翔 …卒業研究って？

先生 わたしのゼミのだよ、チームで共同研究 翔、まだ誰とも組んでないでしょ

翔 え、ああ

ゆき そっか、言っていないじゃん

りな …よかったら、あたしたちとどうかなーって話してたの

翔 俺が？ りなとゆきと？

ゆき 先約なければだけど

翔 いいの？

りな ん？

翔 だって

翔 あの あのさ？

ゆき うん

翔 俺、俺、こうやって天才だけど もし俺が天才じゃなくなったとしても、

ゆきとりなは、俺の友達でいてくれる？

翔、りな、ゆき、先生 Out

#11 僕④

僕 In

僕 夏休みが明けました だというのに、この年の夏はなかなか消えてくれなくて

空気の匂いも、空の色も、八月が続いているようでした

それでも教室には 不特定と多数が戻ってきます

また狭くなった教室で、酸素はたちまちに足りなくなつて

…どうして、とか言ったら理由はないのでしょうか

僕やあの子にとって、日常はひび割れ硝子のようなもので

いくら世界に夏が続いてたって、僕らの日常だけがばきんと割れてしまうなんて
きつとそんなの、よくあることだったのでしょうから

弘夢 可 ざわついている教室

僕 …え

弘夢 おー、やっほ

僕 弘夢

弘夢 おい、来たぞ

わっと沸く教室

僕 え、え、何？

弘夢 いや、俺は違うと思うよって言ったんだけどさ なんか、盛り上がっちゃって

ごめんな？

僕 なに 何が？

弘夢 なんか、何人かね、夏休みにお前らがふたりで教室にいるの見たんだって

しかもほら、幼馴染とか、同中の奴らが昔はべったりだったとか？

いやいや、アオハルかよ、ってあいつら盛り上がっちゃってさ

僕 教室の中、みんなの輪 彼らは基本的に明るくて優しい、ふつうの、人です
けれど円の外側には、時折びっくりするくらい冷ややかでした

弘夢 ちがうならちがうって言ってきていいからさ、な？

僕 …

弘夢 やーでもさ、確かにちょっとお似合いなのかなとかは俺も思っちゃったよね

僕 やめてよ

弘夢 だって、俺があの子の悪口言ったとき引いたじゃん

僕 そんなこと

弘夢 や、文句とか言ってるけど 一緒にいるとき楽しそうってみんな言ってたしさ
なんかごめんな？

僕 待って、なんでそうなるんだよ 僕だって

弘夢 そんな拒否らなくていんじゃないの

君in

僕 …あ

君 おはよう

弘夢 おはよう

君 あのね、これ、今朝ね、コンビニで買ったの このチョコ、君、好きだよ

君 …いらない？

弘夢 無視はかわいそうじゃん

君 …どうしたの？ ねえ、なんだか変だよ

僕 やっぱりさ、「今だけ」とかないんだよ

君 え？

僕 何したってさ 「今だけ」なんかなくて、ぜんぶぜんぶあとで後悔するんだ

君 それで僕にとって 君はそれなんだよ

君 ねえ、どうしたの？

僕 呼ばないで

君 え？

僕 僕を巻き込まないでよ

君 ねえ 待って

僕 君のせいで 僕が

君 ねえ やだよ

僕 君のせいで 僕は、君のせいで不幸になる

君 ……

僕 ……

君 ねえ、あたしね あたしね …人魚なの 人魚…

僕 …

僕 彼女はただ、足早に教室を出ていきました たったひとこと

僕・君 かなしいなあ

僕 と ほんの少し笑ったようなその声だけが 僕の耳に聞こえたのでした

僕・弘夢 Out

君 ねえ どうにもならないみたい 結局、かなしいなあ…

君 否定されてでも近くにいたかったの 覚えてさえいればまたいつかって！
こんなことなら こんなことならね、王子様、刺しちゃえばよかったのかな

君 …あたしたち、お互い、羨ましいんだね だからこんなふうになったのか

君 どうするって もう、もう、どうにもならないよ
だから

君 そっか うん、あたしも もういいや！ 最後は同じ選択になるんだね
…人魚は最後に、泡になるの

僕 In

僕 空の真っ青な日でした 相変わらず、まだまだ真夏のおいがしました
委員の仕事があるっていうのにあの子は教室にいない
僕 僕は、ほんの少しだけ言い過ぎたかともか思いながらあの子を探して

僕、言いよどむ

僕 …そこに、あの子は立っていました
そうしてにっこりと笑って かなしいと、そう言ったときのようには笑って
あたし人魚なの 人魚だから、飛び込んだらきつと気持ちがいいわって笑って！

暗転

#12 相馬④

りな板付き 相馬 In

りな あ、やつほ

相馬 ああ …ひとり？

りな うん

りな 今日は外、寒いねえ

相馬 まあ…何してんの？

りな これ？ 日本文学史のレポート 今日、最後の授業だったんだけど
そのときに一個だけ出せなかったレポートがばれててさ

相馬 五倍か

りな そう！ ほんっとめんどくさい たった一回じゃんね

相馬、鼻歌

りな え？ なにそれ

相馬 ドツベルゲンガー この話に出てくるじゃん、シューベルトの

りな ああ へえ、よく知ってるね

相馬 別にこれくらい…何？

りな ううん、最近相馬くん、よく話してくれるなーって

相馬 …よく会うからだよ 最近、もうひとりのやついないし

りな うん、まあ 相馬くんと話がしたいから来ないでもらってるの

相馬 …え

りな ああ、本人にはそんな風に言ってないよ？

相馬 …

りな あたしは、相馬くんと話がしたいの！ 相馬くんと話すの楽しいから

相馬 なにそれ

りな 聞いてほしいの、あたしの話 相馬くんの話も聞きたいよ

だから、あたしは相馬君の味方

相馬 …なんでそこまで

りな 相馬くんをみていると救われるようなかんじがする

相馬 救われる？

りな 「今だけ、後先なんて気にしない！」って、それ、そういう生き方、

あたしすごく好き そうやって生きてたいの、あたしも

相馬 俺は、そうとしかできないだけで

りな うん、もっとみんなと同じようにさ 上手に未来をみて、

上手にその場しのぎして、それで大勢の人に囲まれて、そうありたいんでしょ？

相馬 …でもできない だから

りな そう、だからあたしが肯定したいの 相馬くんは今のままでいいよって

それで、あたしのことも肯定してよ

相馬 …意味が分からない

りな あたしと友達になろう だから、喋ろ？

相馬 …お前とだけ話しても意味ない 俺はみんなと、
りな みんなみんなみんなって、なんで？ それもさ、嫌な過去に関係あるの？

相馬 …

りな 教えてよ

相馬 嫌だ

ゆき、先生曰

ゆき え、ちょっと… 何？

先生 …大丈夫？

りな …

ゆき おい、こないだ、変なことするなって、言っただろコラッ

相馬 …俺は

りな 待って！

相馬、りな Our

ゆき え、ちょっと、黒羽さん

先生 ゆき！

ゆき え、なんですか

先生 あの… 心配な気持ちはわかるけど、ちょっと放っておいてあげて…とか

ゆき え？

先生 ほら確か、ゆき、この時間また説明会なんだって言ってなかった？

学内の、合同説明会…

ゆき 黒羽さんが誘ってくれたのに、来なかったんですよ

先生 …それは、そっか

ゆき なんでそんなに構うんですか？

先生 え

ゆき 先生だけじゃなくて …今まで、黒羽さんを心配することなんてなかったのに

先生 相馬は 悪い奴じゃないんだ、変わってるけど

ゆき かなりですよ かなり変わってる

先生 うん、それは

ゆき 先生 いつも、ここにいさせてくれてありがとうございます

先生 え、急にどうしたの

ゆき でも、ホントはこういうのも、だめだったんですよ

先生 どういうこと？

ゆき ご相談があるんです ちょっと聞いてもらえますか

ゆき、先生 Out

暗転

13 翔④

12の冒頭と同じ構図 翔 In

りな あ、やつほ

翔 ああ …ひとり？

りな うん

りな 今日は外、寒いねえ

翔 まあ …何してんの？

りな これ？ 日本文学史の成績表 今日、最後の授業だったの

あの人レポート評価しからないから

翔 どうだった？

りな 完璧！ 翔さまのおかげでコンプです

翔、鼻歌

りな え？ なにそれ

相馬 ドッペルゲンガー 前にりなどやったじゃん、不の昇天

りな ああ へえ、よく知ってるね

翔 別にこれくらい …何？

りな ううん、さすがみんなの天才翔さまだなーって

翔 さまはやめてって

りな うん、まあ そうだね

先生 In

翔 あ、こんにちは

先生 こんにちは あれ？ ゆきは？

りな 今日も説明会です、学内の

わたしも行くこうと思ってたんですけどSS忘れちゃって

先生 へえ ゆきは意外と熱心だよ

りな まあ、未来かかってますもん

先生 さて、未来といえど 卒業研究は、結局どうするの？

翔 …あの、りな？

りな ん？

翔 あの… あのさ 前にゼミ飲みとか 連れてって、話あったじゃん

りな うん

翔 あの あれさ、俺も行っていないんだよ

りな え？ 急になに？

翔 誘われてなかった みんなに人気者の翔さまって言ってくれるけど、

りな …違うんだ？

翔 ただの便利屋っていうか 確かにたくさんの方が周りにはいるけど
輪の中には入れてない…かもしれない… から

ふたりをそういうところに連れていくとか、無理だと思う

りな 翔くん

翔 それで それで、俺、ゆきとりなの間にも入れてないと思ってた

りな え？

翔 三人でいてもゆきはさ、なにか話題をだすとき ねえ黒羽さん って言うし

りな そんなの なにか聞くと き ゆきどう思う？ って絶対言うんだよ

翔 わかっている 無意識なんだろうけど

でも、無意識に俺の名前を呼んでくれるような相手はいないってこと
…なんか、変な話だけど、記憶ないって気付いて納得した

先生 どういうこと？

翔 なんの根拠もないけど、無意識に俺の名前を呼んでくれるような誰かが
いつかはいた気がするんです だから尚更ずっとずっと、寂しくて

りな …その相手がなくなった記憶にいる、ってこと？

先生 翔、それは

翔 …でも、もういいんだ

先生 え？

翔 卒業研究のテーマですよね 「記憶取り戻す」じゃないやつにしようと思います
ゆきとりなは俺のこと、友達って言うてくれたから あるとき

りな …そうだね

翔 それなら、もういいかなって思ってたんですよ

俺の記憶にだれかいるなんてただの妄想で、先生の言う通り未来は明るくて
…そっちにただ、向かっていけばいいだけなんですよね、きつと

沈黙

翔 え、ちが ちがい…ますかね チームもできれば、ゆきとりなとつて

思ってたんですけど あれ

先生 …翔！

翔 え、はい

先生 感動したり！ よかったね翔、よかったね

翔 なんか やめてくださいよ

先生 だつてねりな、翔はねこう見えて根は控えめで なのにこんな陽キャぶっちゃって

翔 やめてくださいよ！

先生 わたしはずつと心配してたんだよ

翔 ずつとつてそんな 大げさな

先生 これからもさ、こんな風に、ちよつとずつ友達増やしたらいいんだよ ね？

りな え あ、はい

翔 …でも俺、ゆきとりながいれば別にいいです

大勢、みんなに囲まれるのにはもう疲れました

先生 そう そっか それならいいんだけどさ

りな …ねえ、翔くん？

翔 ん？

りな あの、先生に… どうしても相談したいことがあつて

先生 わたし？

翔 それ 俺はいないほうがいいの？

りな ごめん… ちよつとだけ、席外してもらえるかな

翔 Out 研究室のドアの前で立ち止まる

#14 翔・相馬⑤

翔世界線のりな・相馬世界線のゆき 先生

先生 それで、相談って？

りな 話すと、けっこう長くなっちゃうんで

ゆき 最初に結論だけ言いますね

りな 先生にもちよっと、協力してもらえたらって思ってた

りな 翔くんともう一緒にいたくないんです

ゆき 相馬くんともう一緒にいたくないんです

先生 …え それは なんで？

りな あたしたちの過去の話ってしたことありましたっけ

ゆき 過去って言っても高校の頃の話なんですけど

りな そもそも、あたしたちよっと変でしょ？

あたしは

ゆき・りな 「黒羽さん」

りな なんて呼ばれてて

ゆき 向こうは

ゆき・りな 「ゆき」

ゆき ですよ

りな 仲いいけど、距離感ちよっと変じゃないですか

ゆき 黒羽さん、高心するとき委員長だったんです あの時、クラス委員？ みたいな

りな それで、ゆきはクラスメイトでした でもただのクラスメイトじゃなくて

ゆき・りな …いわゆる、いじめられっこ。でした

ゆき 昔からそういうタイプなんですよね

女みたいな名前とか、なんとなく変だとか？ 理由は適当で

りな たまたまクラスの輪からゆきだけが弾かれたんです

ゆき 別にね、殴られたとか机に花置かれたとかそういうのじゃないんですよ

ただ、無視されて、誰もこっちの声が聴こえないみたいな

…このまま耐えてれば卒業だし、まあいいやー、がんばるかー、って

思ってたんですけど 黒羽さんが助けてくれたんです

りな 助けたっていうか、もうなんか、無理になっちゃったんです

後先とか全然考えてませんでした、ただもう、あたしの前でそういうことするな！

みたいなの？

ゆき びっくりした こんなこと本当にあるんだって思いましたよ

…でもその日から、黒羽さんも

ゆき・りな ターゲットになりました

りな ひとりとふたりってまた違うんですよ もっとひどくなるんです

しかも男女だったのもあって、すっごい、冷やかされたりとか

ゆき で、もう、

ゆき・りな 教室行くのやめたんです

りな 三学期は保健室に通って大学も同じとこ受けました

ゆき 地元から遠いとこ

りな …でも結局、ふたりの世界作っちゃってたあたしたちは

わりと大学にもなじめないっていうか、そんな感じで

ゆき で、行きついたのでここ！ 先生の研究室ってわけです

いやあ、なんていうか、昔懐かしい保健室の雰囲気があるんですよ

先生 …それがどうして、あの子との話に繋がってくる？

りな 先生、ゆきはね …たぶんあたしも ちょっと変なんです

でもそれだと酷い目に遭うっていうのも知ってるんです

…みんなの輪の中心の、人気者の翔さまと一緒にいたらね、

あたしたちもたくさん友達ができるかなーって思ってたんです

でも、誰が彼を見えますか？ 彼も、ほんとにこっちを見てるでしょうか？

彼はどこかで、それを取り繕ってばかりで、結局ひとりぼっちです

それなら一緒にいたくない、いてもしょうがないって思うんです

…騙してみたんですけど、あたし、馬鹿正直はゆきを助けたときに卒業しました

あの選択に報いるために、あたしもゆきも、ふつうに幸せにならなくちゃ

…後悔がないって言ったなら …いいえ、なんでもないですけど

ゆき

先生、黒羽さんはね、たまに後悔してるんじゃないかって思うんですよ

あの日黒羽さんは確かに救世主でした、馬鹿正直で、まっすぐで眩しかった

でもそれを、捨ててくれたんですよ 救い続けてくれるために

今の黒羽さんは昔に比べて、ずいぶん都合のいいことを言うようになりました

…それはもしかしたら、黒羽さんにとって良いことじゃないのかもと思う

けど、だからこそ、ふつうに幸せにならなくちゃとも思う

…怖いですよ相馬くんは、あんなふうな態度とか振る舞いは危ない、

関わったらふつうの幸せから遠くなる

…なのに黒羽さんは、あいつのことを選んでしまいそうじゃないですか

先生

…だから、あの子から離れるべきだ、か

言いたいことはわかる、わかるけど…

どうかももう少しだけ、あの子がちゃんと未来に向かえるようになるまでいい
君たちの昔の話を聞いて、だからこそ一緒にいてあげてほしい

りな 先生、もう行きますね ゆきのこと、迎えに行こうかな
ゆき 先生、もう行きます 黒羽さんを、追いかけないと

ゆき、りな O.F. ドアの前で聞いていた翔逃げる

先生 あの子はもう誰も 失うべきじゃないんだ…

15 翔⑥

先生とりなの会話を聞いて逃げた翔、いったん研究室の前に戻ってくるが入れない

弘夢 In

弘夢 あの すいません

翔 え あ

弘夢 あ、俺、ここの先生に相談があってきたんですけど…って

翔 …え

弘夢 久しぶりじゃん 俺のこと覚えてる？

翔 ……………ひろむ？

弘夢 そうそう

翔 大学… 一緒だったんだ

弘夢 俺浪人してたから ひとつ下なんだ

翔 あ、そうなんだ

弘夢 …まあ、俺はその いるの、知ってたけど

翔 え？

弘夢 まあなんか、うん …中、なんかやってんの？

翔 …あ、ああ、うん、たぶんあの 取り込み中

弘夢 そっか じゃあ、せっかくだし、話そうぜ

翔、弘夢、少し移動

翔 …

弘夢 卒業以来だよな なんか結構、印象変わった？

翔 どうだろ

弘夢 ほら、全然、同窓会とか来ないから

翔 うん ……そんなんやってるのも知らなかった
弘夢 あ、マジ？ あー…ほら、連絡先とか、多分誰も知らないんだ
翔 次回は来れば？
翔 ……あんまり覚えてないから いい かな
弘夢 ……やっぱさ、あのこと、あったから？
翔 え？
弘夢 ごめん あのとき
翔 え
弘夢 や、ごめんいきなり
翔 ……でも俺、ずっと謝りたかったんだ 謝るの都合いいけど
翔 あんなことになったのは、俺も原因だったよなって思っ
翔 ……あんな こと？
弘夢 え？
翔 なんか 弘夢にされたっけ、俺
弘夢 いや、待って 忘れられるわけ、ないでしょ
翔 どういうこと？
弘夢 待って。俺、からかわれてんの？
翔 からかってなんか
弘夢 じゃあ、え？ 意味が分からない
翔 ……覚えてないんだ
弘夢 は？
翔 俺ね、なんか、記憶が欠けてるんだって
弘夢 記憶が欠けてる？
翔 うん それもなんか、大切な 記憶が
弘夢 それは、あの子のこと？
翔 あの子 あの子って
弘夢 ……ほんとに、覚えてないんだ
翔 教えてくれない？ あの子って 誰？
弘夢 それは
翔 それは その子はさ、俺にとって大事な子？
弘夢 だいじな ……だいじな、って そんなの
翔 覚えてることがあるなら教えてほしい
弘夢 ……
翔 弘夢？

弘夢 俺、俺ね、浪人して、けっこう志望変えたんだ 記憶とか…そういう勉強したくて
でき、今、この先生の助手とか、そんな感じのにしてももらえないかなって思ってた
翔 ……そうなんだ

弘夢 あのさ、俺、すげえ後悔したよ 覚えてないのに言っても仕方ないけど
何回も何回も、逃げたくなった 忘れたくなったよ

でも、俺はできなかったから できなかったから、こうしてる ……けど

翔 ……何？

弘夢 本当にいいの？

翔 え？

弘夢 あんなこと忘れてるってさ、普通じゃないと思う

翔 だから

弘夢 忘れたかったから 忘れてんじゃないのかなあ

翔 ……

弘夢 それだってアリだと思う 忘れるって、そんな選択肢があったなら俺も
……や、ごめん

翔 ……それでも、いまの俺は思い出したいよ

弘夢 なんでそこまで

翔 いまの俺には何もないんだよ

弘夢 え？

翔 わかんないけど、わかんないけど 俺が欲しいものは、もうそこにしかない気がする

弘夢 ……そっか

翔 うん

弘夢 高校の裏手にさ タイムカプセル、埋まってんの

翔 タイムカプセル？

弘夢 卒業前に書いたんだよ ちょうどこの時期かな

翔 ……それを掘り出せってこと？

弘夢 そう。クラスのほかの奴らの分はまた埋めといて

翔 いま教えてくれれば、済むじゃん

弘夢 俺からあのこと話して、思い出させるのは ……ごめん、俺の甘えだ

翔 ……でも、俺がその、忘れてること書いてるとも限らないんじゃない

弘夢 いや、書いてるよ 絶対 だって だって ……きつと、そうす

ゆき In

ゆき ……あ

翔 ゆき

ゆき、翔と目が合って逃げようとする

翔 待って

ゆき ……何？

弘夢 あの えっと…？

翔 あ ゆきは 俺の ……

翔 ……弘夢 わかったよ

弘夢 え？

翔 ……ねえ、ゆき あのさ、俺、ぜんぶ思い出してくるよ

ゆき そうなんだ

翔 手紙をね、探しに行くんだ そこに全部あるんだって

ゆき そしたら そしたらさ、もうきつと あの、俺、大丈夫だから ……もういいから

翔 え？

ゆき ……確かに翔さまは、向き合ってくれてなかったなって、思ったから

ごめんね でもたぶん、お互い様だよ

ゆきOut

翔 ……なんだよそれ

弘夢 なんか、えっと、大丈夫？

翔 うん 弘夢、いろいろありがとう

弘夢 いや、おう 全然、ちゃんと話せなくてごめん

翔 いいよ

弘夢 ……さっきの人がいったのって、あの先生の研究室…だよな？

俺も行くわ

翔 そっか

弘夢 そっちも頑張れよ、えー…翔さま？

翔 え

弘夢 え？

翔 弘夢にそんな風に呼ばれるの なれないから

弘夢 ああ、なんか、大学入ってから それで聞いてたからさ

有名になっちゃってて

翔 そっか …でも、それで呼ばれるの嫌いなんだ
弘夢 あ、そうなんだ ごめん
翔 普通に、昔と同じでいいよ
弘夢 あー… 昔、なんて呼んでたっけ
翔 昔は …普通に、苗字だよ
弘夢 そっか あー、じゃあがんばれよ 相馬

弘夢 Out

#16 相馬⑥

りな In

りな 相馬くん

相馬 …あいつが心配するじゃん

りな いいの もう、いいの！

相馬 …は？

りな ねえ相馬くん、喋ろうよ

相馬 なにを

りな なんでもいいんだって 雑談！

相馬 だから、なんだよそれ

りな あたしね、後悔してる

相馬 なにを

りな あたし、自分の生き方が好きだった 誇りに思ってた！

今だけ、思ったことを、まっすぐに！

でもね、いじめられてたゆきを助けるためにはそれじゃだめだった

相馬 …いじめられてた のを、助けた？

りな 後先考えて、自分の、ゆきの未来がより良くなるように考えるようになったよ

今だけ、今だけ！ そんなのできなくなったよ

相馬 それが普通だろ

りな あたしは嫌だった！ ゆきを助けたことは後悔してないよ、

でもそんな自分になっちゃったのは

ずっとどこかで 無意識に後悔してたと思う

…だから相馬くんと話をしているとキモチイイんだよ

相馬 は？

りな 一緒に考えるのなんてやめちゃって、今！ 今だけ、そんな話をしよう

相馬くんが返事をしてくれるってことは、

あたしはそういうあたしでいるってことでしょ？

相馬 何言ってるんだよ　なんだよ、それ

りな 酷いこと言ってるいいよ、傷つけてもいいよ、

あたしは相馬くんのそれをちゃんと肯定するから

相馬 ちがう！　俺は嫌なんだよ、こんなの

りな みんなの輪に入りたいから？

相馬 そう　：大勢の　輪の中にいたい、そうじゃないと

りな 相馬くんにそんなの無理だよ

相馬　：

りな どうしてそんな、大勢、みんな、にこだわるの？

あたしが友達になるよ、相馬くんのたったひとりの　それでいいじゃん

相馬 俺の　たったひとり：

りな　そう

ゆき In

ゆき 黒羽さん

りな　：ゆき　追いかけてきたの？

ゆき 黒羽さん　最近おかしいよ

りな　：

ゆき 普通に　普通にしようって言ったじゃん

りな　うん　言ったね

ゆき　：ほんとは　ほんとは黒羽さんがいてくれたらいいんだよ

でも、黒羽さんがそうしてくれたから　だから、黒羽さん

りな　：ごめんねゆき

ゆき　え

りな　でも、もう呼ばないで

ゆき　：え？

りな　巻き込まないで

ゆき 黒羽さん　なに　何言ってるの？

りな　ゆきのせいで　あたし変わっちゃったの　それが嫌だった　後悔してた

相馬　おい

りな　ゆきのせいで

相馬　言うな！

りな　え？

相馬 言うな ……

りな ……相馬くん？ どうしたの？

ゆき 黒羽さん ねえ

ゆき ……ねえ、なんでよ…

ゆきOut

相馬 ……僕の前でそんなことを言わないで

りな ねえ、相馬くん

相馬 そうだ 無理なんだよ

こうやって 何もかもがよみがえる、思い出す！

記憶にこびりついて、目の前に現れるんだ あの子が あの子の声

りな あの子って

相馬 たったひとり たったひとりに、ずっとずっと縛られてる

だからこんな風になってんだよ僕は 今だけ、今だけ、後悔しないように！

ずっと後悔してるから、だから僕は

りな また 過去の話？

相馬 たったひとり… 僕のたったひとりに替わるはずないだろ

りな そんなの

相馬 ぜんぶぜんぶ忘れたい 忘れたいのに離れないんだよ

だからせめて、たくさんの みんなの その中に入れたらきつと

いつまでもいつまでも、縛られないでいられたかもしれないんだ

りな 無理だよ、相馬くんには

相馬 ……消しに行こう

りな え？

相馬 ……もう全部消そう あの子のこと あの子の記録、記憶、全部全部全部

そうだ そのために あのとがみを

相馬Out

#17 僕⑤

翔世界線のゆき、相馬世界線のりな・先生☹ 弘夢はドアの前で立ち止まっている

ゆき・りな 先生

先生 ん？

ゆき・りな 彼、行ってしまいました

ゆき ぜんぶ思い出してくるって そのために行くんだって

りな ぜんぶ忘れたいって 行かないでって言ったのに

先生 …あの子が？ どこに？

ゆき・りな …手紙

ゆき 手紙と言っていました 全部がそこにあるって

りな 手紙と言っていました 消してしまおうって

先生 まずい …まずい、探して 連れ戻して！

りな 先生、彼、なんなんですか？

ゆき いったい 何があったんですか？

君 In

先生 …ずっと記憶の研究をしていた 特に興味があったのは、人の悲しい記憶

嫌な記憶にとらわれて眠れないとかあるでしょ？

そんな記憶は捨ててしまえた方がいいと思っただ

そしてすべを、わたしは探し始めた

わたしの専門分野では難しいから、他の機関の協力を得るために住処さえ移した

君 ねえねえ先生 今日ね、空をみた？ とってもきれいだっただよ ね？

先生 そして、その街にいたのがあのふたりだ

ひとりには、カラフルなお菓子のような女の子 少し変わった子だった

もうひとりはその幼馴染 女の子に比べると特徴がなくて、おとなしい子だった

…だからかな、都会出身のわたしを慕ってよく遊びに来ていたふたりは、

いつか女の子しか来なくなった

君 先生 あのね、…あのね 呼ばないでって言うんだよ

あたしといるとふしあわせになるんだって
昔はあんなに あんなに一緒に、しあわせだったのに

先生 ……奇跡みたいなタイミングだったよ そう、研究が完成してたんだ
悲しい記憶を忘れる方法 わたしは… わたしは選択肢を与えた
幼馴染のことを忘れるか、覚えているか

君 なんだかそれって、人魚姫みたい
……あの子を忘れるっていうのは、
自分が生きるためにナイフで王子様を刺すことみたい
先生、でもね、あたし忘れたくないなあ
いつかまたどこかで、あの子と、昔みたいにしあわせに笑えるかも

先生 研究がひと段落したわたしは、その街を離れた 結局、方法は試せず終いでね
そうしてまた、偶然あの街を訪れたときにふたりに会ったよ
……うまくいってないみたいだった
王子様は相変わらず冷やややかで、人魚姫は泣いていた そして

君 人魚は最後に、泡になるの

先生 信じられる？ あの子は死んでしまった！ 葬式で、もうひとりに出会ったよ
……彼は、あんまり痛々しいくらい、いなくなったあの子に囚われていた
わたしは、わたしはそうせずにいられなかったんだ
忘れるか、覚えているか

先生 ……そのあとだったんだ、あの子の遺品から私宛ての手紙を見つけた

君 『どうしてもね、うつむいてしまうの 後悔してしまふの
そうして そうしたら ……あの子が現れました あの日王子様を刺したあの子
あの子も後悔してた あたしたち、互いの選択がうらやましくて仕方なかったの
あたしたち、どっちも、しあわせじゃありませんでした
ねえ、あのね、どうしたって、どうにもならなかったみたい』

先生 独学で、夢中になって調べたよ そしてひとつの推論にたどり着いた
……パラレルワールドって知ってるかな？
並行世界、もしもの世界

そこには、自分が選ばなかった未来を歩んだもうひとりの自分がいる

君 忘れるか。覚えているか

先生 …後悔しちゃいけないんだ。自分の選択を

執着しちゃいけない、あったかもしれない、もうひとつの選択肢に
なぜなら 互いの選択への後悔は、もうひとりの自分を呼びよせてしまう

君 あたしたち、互いの選択がうらやましくて仕方なかったの

あたしたち、どっちも、しあわせじゃありませんでした

ねえ、あのね、どうしたって、どうにもならなかったみたい

先生 ドツペルゲンガーと出会ったら死ぬというのは怪談じゃないんだろうね

ありえたかもしれない世界を羨んで、それでもどうにもならないと知ったとき

りな 相馬くん

ゆき 翔くん

ゆき・りな Out

先生 人間ははたして、後悔と絶望に耐えられるのかな…

きっと それで、あの子も そうなんだろう？

君、笑って Out

弘夢 In

先生 …君は？

弘夢 俺 俺は …あの… あの、二年の進堂弘夢といいます 俺、先生に

先生のところで勉強させてもらいたくて

先生 悪いけど、今はちょっと

弘夢 俺！ 俺 …先生が言っていた、死んでしまった女の子と、その幼馴染

俺のクラスメイトでした

先生 え？

弘夢 立ち聞きしてすみません 高校三年、あの子が死んだ夏 俺もいたんです

先生 それは …どうして、こんなところに

弘夢 どうしてってだって だから、じゃないですか

先生 …でも、あの、先生 お話聞いて、思いました
なに？

弘夢 先生が与えた選択肢は 忘れても、忘れなくても

ひとを捕らえて、いつか絶望させるのは

ほんとうに「悲しい記憶」なんでしょうか？

俺は悔いて 悔いて悔いて悔いて悔いたけど それでも未来に光をくれた
でもきつと 彼の記憶は

#18 手紙終

相馬翔、僕

僕 …拝啓

カラフルなお菓子のような子でした

じゃりじゃりと鼓膜に砂糖が残るような、甘たらい声で話す子でした

僕は、…僕は、教室の中で、まったくの無味無臭だったのでした

彼女はカラフルな、お菓子のような女の子 厭われて浮いている女の子

相馬 ずっと考えていた 忘れてしまったほうがよかったんじゃないかって

僕 「今は今だけ、後悔しないように」というのが、あの子の口癖でした

鮮やかな虹 露ののった朝顔や、夜のてっぺんに光る月

あの子について回るのはいつも楽しかった！

翔 全部思い出した！ あの日、僕はあの子のことを忘れてしまったんだ

僕 狭く息苦しい教室で、正しさなんて誰も求めてはいませんでした

だって、不特定と多数の悪意は、僕らから簡単に酸素を奪う

そうして溺れてしまうのは、どうにもならないほど恐ろしいのです

僕のようなやつにとっては尚更

相馬 忘れてしまえばよかった！ 忘れずに生きていけるはずがなかった！

僕 みんなの輪の中心にはいられない

かといって、あの子みたいにふわふわ漂うのには耐えられない
だから、彼女と一緒に厭われて、浮いてしまうことが怖かった
だから、だから！

翔 忘れてしまわなければよかった！ 忘れて生きられるはずがなかった！

僕 埃っぽい教室は、二人だけで過ごすには存外広いものでした

時折、僕も彼女もぜんぶ忘れたようになりました
今、をただただ過ごしてしまいそうになりました

僕 夏休みが明けました

：彼女はただ、足早に教室を出ていきました
たったひとこと かなしいなあ と ほんの少し笑ったようなその声だけが
僕の耳に聞こえたのでした

相馬翔、自分の影を見つめる

相馬翔 お前は 僕なんだ

相馬翔 何も聞かなくてもお前の進んだ世界がみえる
忘れたところで空っぽの穴は埋まらない、大勢の中で孤独なまま
覚ええたままでは焦がれすぎる あの子が言った、今、今だけに囚われて
こんなことなら、お前になってしまいたかった！

：それでも それでも、どうにもならないんだろ
僕たち、どっちも、しあわせじゃなかった
どうしたって、どうにもならなかったんだ

僕 空の真っ青な日でした 相変わらず、まだまだ真夏のおいがしました

委員会の仕事があるっていうのにあの子は教室にいらなくて
僕 僕は、ほんの少しだけ言い過ぎたかともか思いながら、あの子を探して
：空が、真っ青で、とても綺麗だったから！
きつとそこにいると思つて、屋上に足を踏み入れました
真っ青な 高く澄んで真っ青なその下 べったり重いフェンスの向こう側に
そこに、あの子は立っていました

そうしてにっこりと笑って かなしいと、そう言ったときのように笑って
あたし人魚なの 人魚だから、飛び込んだらきつと気持ちがいいわって笑って！

相馬翔 向かう未来に光があるから、過去に影が出来るんじゃない

過去の光があんまり強くて、向かう未来に影が落ちる
ずっとずっと辛かったのは

あの子がいた、あの子と過ごした、あの日々があんまり眩いからなんだ
それがもう、二度と戻らないからなんだ

だからもう決めた 僕は お前は？ そっか、僕が決めたんだもんな
最後は同じ選択になるんだね

僕 拝啓

叩きつけたみたたく青かった空が、日々淡くなっていきます

君、ピアノ伴奏 「虹」

相馬翔 ……いっそあの夏の日 あの子が消えてしまった日にそうすればよかった
ずっと、ずっと、あの日の青が離れない

よく似た空を見上げれば、あの子の声が聴こえるような気がする
誘われているような感覚がして、まるで、人魚のうたのような
……連れて行ってくれる？

君、振り返って伴奏を止める

相馬翔 ……呼んで 僕を巻き込んで

だって、君のせいだ 僕は、君がいないせいで、ずっと不幸だったんだ

僕 あなたがこの手紙を読む頃、きっと僕は…

なんてありきたりなことは言わないでおきましょう 無意味ってもんだから
まあそんなことを言いだせは、この手紙だってそうなのです
これは僕の自己満足ってもんなんです

褪せていく夏と、あの子のことを どこかに残しておくための
つまり、僕は怖くて嬉しくて、恐れてそうして喜んでいます
どうしたってもう、えらぶことにはえらぶのです

そんなわけでこの手紙は、僕と人魚の話なのでした。

未来のあなたへ　あなたがどちらを選ぶのかわからないけれど、

いつかこの手紙を読んでいるあなたの臉から、あの日の青が離れていますように

僕　敬具

僕・相馬翔　相馬翔

暗転